論文査読要領（案）

1. 主旨
 - 学会誌に掲載される論文の質を高めることで、研究コミュニティの発展に寄与することを目的とする。本査読要領の対象とする論文の範囲は著作権規程ならびに投稿規程（以下投稿規程という）の定めるところによるものとする。複数の専門家査読者によるダブル・ブラインド方式によるピア・レビューに基づき、採否を判定するところが論文査読制度の特徴である。
2. 投稿者・査読者・委員会の役割
 - 2.1 投稿者
 - 著者：論文に貢献し責任を負える者かつ投稿への同意を表明した者。
 - 筆頭著者：著者のうち最大の貢献者。
 - 責任著者（以下、投稿者）：著者のうち連絡を取る責任を持つ者。筆頭著者が務める。筆頭著者とは別に著者のうちから責任著者を置くことができる。
 - ◇ 赤色箇所は、現行の投稿規程における文案。
 - ◇ 緑色箇所は、投稿規程における「5. 投稿資格」の改定が行われた場合に赤色文案を廃止して設ける文案。
 - 2.2 投稿者・査読者・委員会の役割
 - 投稿者・査読者・委員会の三者とも学術研究者として（一般財団法人）公正研究推進協会(APRIN)などの研究公正教育を受けていることを要件として、別途定めた倫理規程を遵守するとともに、相互の権利を尊重する必要がある。詳しくは倫理規程で扱う。
 - (1)投稿者：投稿者は著者全員の同意取得と投稿・査読・出版の全工程に責任を負う。
 - (2)査読者：専門性の観点から原稿を公正に審査する役割。本学会における学術の質を高めるべく建設的な観点を持つ。
 - (3)論文審査委員会（以下委員会という）：査読制度の運用に関して学会を代表して採択の可否を判定する役割。
 - 2.3 重複時の扱いについて
 - (1)著者と査読者の重複はこれを禁止する。
 - (2)査読者と委員会委員の重複は、本要領で規定される場合を除き禁止する。
 - (3)著者が委員会委員と重複する場合は、委員会はダブル・ブラインド方式を遵守する。
3. 査読の方法
 - 3.1 委員会
 - 3.1.1 査読原則
 - ◇ (1)投稿規程および執筆要領等と照合できる事項は委員会が行う。
 - ◇ (2)査読者名は投稿者に秘す。投稿者名は査読者に秘す。
 - ◇ (3)査読者は委員会が選定する。
 - 3.1.2 査読者の選定
 - ◇ (1)委員会は、当該応募論文査読のための担当委員を定め、査読者2名を選任する上で、査読の依頼対象者（査読候補者）を選定する。
 - ◇ (2)査読者は学会会員のうち専門分野を考慮して選定するが、該当する会員が不在の際には非会員になることもできる。
 - ◇ (3)利害相反を考慮するとともに、査読の公平を期するため、特殊な場合を除き、利害関係者（例えば、著者と同じ研究室・部課等に属する者など）を査読者とすることは避ける。
 - 3.2 査読者
 - (1)選定された査読候補者は、査読者を辞退することが出来る。ただし、辞退表明は、委員会から査読依頼を受けた後、1週間程度以内に行うものとする。
 - (2)査読者は査読に関する事項を他に漏らしてはならない。
 - 3.3 論文査読における判定書

- 査読者は、委員会が送付した空欄の判定書に査読の結果を記入して委員会に返送する。判定書は、総合判定結果、講評、意見を含むものとする。
 - 3.3.1 総合判定結果の選択
 - ◇ (1)査読者は、査読においては「掲載可」「要修正」「掲載不可」のなかから総合判定結果の一つを選択する。再査読においては「掲載可」「掲載不可」から一つを選択する。
 - 「掲載可」：3.3.2の基準に照らして学会の論文として基本的に掲載に値するもの。
 - 「要修正」：疑義が解消されない限り、掲載に値するか判断を留保せざるを得ないもの
 - 「掲載不可」：3.3.2の基準に達せず掲載に値しないもの。
 - ◇ (2)「掲載可」の場合、(無条件)(形式条件付)(軽微条件付)から一つを選択する。掲載可(形式条件付)とは、査読結果を著者に伝え、修正原稿が再提出された場合に委員会の担当委員が確認することで、掲載可(無条件)とするもの。「掲載可(軽微条件付)」とは著者に対して軽微な修正を指摘したもので、修正結果を査読者が確認をし、了解を得られることで掲載可(無条件)とするもの。
 - 3.3.2 評価基準
 - ◇ 判定においては、下記の評価基準を満たしているかを考慮する。
 - ◇ 【スコープ合致性】論文内容が本学会の学術活動スコープ(目的・方向性・対象研究者層)に合致していること。
 - ◇ 【価値と新規性】書かれた研究内容に価値(研究領域への学術貢献度)と新規性(オリジナリティ)があること。
 - ◇ 【規則適合性】投稿規程などの規則に適合していること。
 - ◇ 【記述と表現】結果の説明や論述、表現等が明瞭であること。
 - 【論旨の妥当性】論旨の整合性がとれており、論理の飛躍等がないこと。
 - 【手法の適切さ】研究手法が適切であること。とくに、目的に対して適切であること。また倫理にかなっていること。
 - 【先行研究の適切さ】関連する先行研究に適切に言及していること。既往の関連研究に対する位置づけを明らかにしていること。
 - 【用語・説明の適切さ】当該分野で適切な用語を正確に用いているか、定義が十分になされていること。また、図・表等は内容を適切に表現しており説明文との不必要な重複のないこと。
 - 【文献引用の適切さ】初出文献等が明示され、著作権への配慮が十分行われていること。
 - 【商業主義への中立性】企業名・商品名・施設名等がみだりに用いられていないこと。
 - 3.3.3 意見と修正条件
 - ◇ (1)査読者は判定結果の掲載可、要修正、掲載不可にかかわらず、査読書に講評と意見を必要な範囲で、簡潔に、具体的、客観的に明記する。
 - ◇ (2)査読者は「要修正」判定の場合、意見において「修正要求」を記述すること。修正要求とは、再査読において適切な修正または反駁がなされていない場合に「掲載不可」判定とするもの。
 - ◇ (3)査読者は意見においてその他のコメントを「参考意見」として記述する。
 - 3.3.4 査読期間
 - ◇ 論文の査読期間は承諾した日から原則1カ月とする。担当委員は、査読期間が経過したとき査読未了の査読者に対して、すみやかに完了するように依頼する。
4. 論文の採否決定手続き
- 4.1 基本ルール
 - 4.1.1 委員会は、2名もしくは3名の査読者からの判定結果を受け取った際、2つ以上の「掲載可」判定結果をもって「採択」もしくは「条件

付き採択」とし、2つ以上の「掲載不可」判定結果をもって「不採択」とする。「採択」とは2つ以上の「掲載可（無条件）」の場合とし、「条件付き採択」とは「掲載可（形式条件付き）」もしくは「掲載可（軽微条件付き）」を含む場合とする。

- 4.1.2 査読者2名の場合、一方のみが「掲載不可」判定であるならば、第3の査読者を選任し査読を依頼する。その結果を含めて4.1.1を適用する。
- 4.1.3 4.1.2において、査読者の評価がそれぞれ「要修正」「掲載不可」判定の場合、委員会が第3の査読者になることができる。
- 4.2 再査読
 - 4.2.1 4.1において、「採択」「条件付き採択」「不採択」のいずれにもならない場合、委員会は「再査読」とし、査読結果を添えて投稿者に通知する。
 - 4.2.2 「再査読」判定の通知を受けた投稿者は修正条件を満たすべく原稿を改稿し、委員会に再査読原稿を送付する。再査読判定を受けた原稿の提出期限は、同判定受領後2ヶ月以内を原則とする。
 - 4.2.3 委員会は原稿を「再査読」判定した査読者に対して、再査読を依頼する。査読者は、提出論文並びに当該査読者の査読書に対する回答書に対して適切な修正が行われたかという観点から再査読を行ない、査読結果を委員会に送付する。なお、判定は「掲載可」「掲載不可」から一つを選択する(3.3.1(1))。委員会は4.1.1に基づき採否を決定する。
 - 4.2.4 再査読において第3の査読者が必要になった場合、その査読者の判定は「掲載可」「掲載不可」からの択一とする(3.3.1(1))。
- 4.3 判定通知と改稿期間
 - 4.3.1 委員会は、採択(Accept)・条件付き採択(Accept with Minor Revision)・再査読(Major Revision Request)・不採択(Reject)のいずれかを決定した際、ただちに投稿者に査読結果とともに判定決定を通知する。
 - 採択の場合：論文審査は終了する。投稿者は編集委員会にその内容の原稿の版下を送付する。
 - 条件付き採択の場合：投稿者は改稿を行い、委員会は3.3.1(2)に従い改稿を確認したのちに「採択」とする。
 - 再査読の場合：投稿者は4.2.2に従う。
 - 不採択の場合：論文審査は終了する。
 - 4.3.2 判定通知に伴う細則
 - (1)採択の場合における受理日は2名の査読者の判定が「掲載可（無条件）」となった日とする。
 - (2)総合判定ならびに査読結果（講評・意見）は委員会名で投稿者に伝達する。投稿者が査読者を特定できないよう留意する。

5. その他の諸規則

- (1)著者ならびに投稿者の変更は、委員会の判断を経て認めることがある。
- (2)査読期間が過ぎた査読者には、委員会は適時査読の促進を通知する。連絡が3週間以上ない査読者に対して、委員会は査読辞退とみなすことができる。
- (3)研究不正ならびに二重投稿が発覚した場合、委員会はそれを理由に不採択にする権利を持つ。
- (4)委員会は、論文の投稿者から査読の内容もしくは採否の決定に関して異議が申し立てられた場合には、投稿者に回答しなければならない。

以上